

城下町上田



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 領主と支配

第一節 仙石氏の政治

一	仙石氏の入封	3
	新領主の仙石氏 仙石氏の三代・八四年	3
二	城郭の修築と町の整備	6
	上田城の修築 上田城下町の整備	6
三	家臣団と職制	8
	上級家臣の地方知行制 仙石氏の軍事組織 仙石氏の行政組織	8
四	領内の支配	11
	寛文年間の領内諸法度 盗人取締の動き 武士に対する慮外禁止 村や町の行政組織と組制度	11

五人組改帳の前書

五	藩政の移り変わり	16
---	----------	----

藩主と家臣たち 矢沢知行所のあらまし 但馬国出石への転封

コラム 松平伊賀守時代の出石

第二節	松平氏の政治	20
-----	--------	----

一	松平氏の入封	20
---	--------	----

藤井松平氏忠晴系 松平忠周の上田入封 松平氏の七代・一六五年 松平忠礼と写真

二	家臣団の構成	26
---	--------	----

初代忠晴の家臣召抱 上田藩主期間の家臣召抱 足軽層の召抱

三	職制と実態	28
---	-------	----

生類憐み令と生類奉行 藩士服部半助の履歴 手廻り頭席と手廻り頭 小林源太左衛門家の履歴

四	領内支配	33
---	------	----

松平忠周二二か条法度 触・覚・仰付・申付など 町や村の支配役人 町役人と村役人

五	藩政の推移	38
---	-------	----

松平忠周の遺戒 家老松平図書が登場 家老藤井右膳の藩政改革 幕末期上田藩政の混乱

第二章 城下町の変化

第一節	侍町とその移り変わり	49
-----	------------	----

一	侍町の範囲	49
---	-------	----

侍たちが住んだ町 格式とのかかわり

二	町人町との境……………	54
	川と橋 木戸・番所 追手口番所構成 門の開閉 連歌町口番所 海野町口番所	
三	絵図にみる藩の施設……………	58
	中屋敷から作事へ 時の鐘 高札場 その他の施設	
	コラム 江戸時代の時刻	
四	侍町の移り変わり……………	62
	文久の新建	
五	城下町の飲用水……………	63
	井戸と曲輪 町人の井戸 洗い場 用水とゴミの不法投棄	
第二節	町人町とその移り変わり……………	66
一	町人町の範囲……………	66
	町人たちが住んだ町 商家のたたずまい 日記にみる原町	
二	道と小路……………	83
	侍町の道 町人町の道 鼠小路 相生町	
三	戸数と人口の動き……………	85
	人口の動き 戸数の動き	
第三章	城下町の経済……………	
第一節	市の成立と変化……………	91
一	市の成立と変化……………	91

海野町と原町の市場	市日の変更	浦野の市場	八日堂縁日	94
二 市の機能	市で売買する品物	上田町市場のありさま	盗品は市で捜す	馬市
二季払勘定	相場書品々の値段	豆腐	酒	米
三	口留との関係	口留番所と穀留	他所商人入込禁止	商札・家中商札
四	他の市の成立	田中宿新市	鼠宿村・新地村新市	101
五	城下町の組織	町人町の支配	問屋・本陣	町年寄
第二節	町役人の役料と町役免除	町在役人の席次争い	定使肝煎	五人組
一	警備と防災	常田口番所と紺屋町口番所	辻番所・自身番	城下町の火災
二	火災の救済	火の用心	火消し道具	駆付人足
第三節	町の構造	本町と枝町	流れの中の境界	寺社門前長屋
町人長屋	長屋住人の実態	町の諸問題	町在商店紛争一件	奥綿一件
第四節	町在商店紛争一件	奥綿一件	114	110

第四章 武士たちの生活

第一節 藩主の生活 119

一 藩主の日常生活 119

儀式行事からみた藩主の生活 江戸での儀式行事

二 藩主の住居 121

上田御屋形 江戸藩邸

三 藩主の文化と楽しみ 123

花春文庫にみる藩主の文化 藩主の楽しみ

第二節 侍の暮らし 125

一 侍の日常生活 125

侍の生活のようす 侍の食事のようす

二 侍の住居 128

家格で定められた住居 日々御用向留にみる約束事

三 侍の学芸 130

上田藩校の設立 藩校での学問

第三節 足軽・中間の暮らし 131

一 足軽・中間の日常 131

足軽・中間の生活規程 生活規程への反発

二	足軽・中間たちの住宅	132
	長屋住まいの足軽・中間	足軽取締規程にみる家造り
三	足軽・中間たちの楽しみ	133
	上田藩での博奕禁止触れ	博奕や賭け事を楽しむ

第四節	江戸藩邸の役割と藩士の生活	134
-----	---------------	-----

一	江戸藩邸の役割	134
---	---------	-----

上田藩の江戸藩邸

二	江戸藩邸の藩士の生活	137
---	------------	-----

江戸日記書抜からみる生活 江戸の生活と火事 江戸の生活と迷子 江戸藩邸の足軽・中間

コラム 江戸時代の計量単位

第五章 商人たちの日々

第一節	商業活動のようす	143
-----	----------	-----

一	上田城下の商いのすがた	143
---	-------------	-----

(1)	問屋の商い	143
-----	-------	-----

造酒屋と株仲間 その他の問屋のようす

(2)	見せ店での商い	145
-----	---------	-----

質屋のすがた 湯屋のすがた 食べ物屋のすがた 米舂屋のすがた

(3)	棒手振りの商い	148
-----	---------	-----

棒手振り

第六章 職人たちの日々

第一節 上田城下の職人

一 城下の職人町

171

171

第二節 商人の生活

一 商人の日常

153

(1) 日常生活のようす

153

暖簾をおろした後の生活 儉約令と町取極

(2) 商人の衣食住

155

商人の衣類 商人の食生活 店持ち商人の住居 行商人や職人の住んだ長屋

(3) 町の生活のようす

159

町の年中行事 商人と祇園祭 商人と市神 市神祭での商い

(4) 商人の学芸と楽しみ

164

『諸家人名録』にみる商人たち 商人の楽しみ 町分での寺子屋教育

(4) 上田城下の貨幣事情

148

上田城下の銭相場 金貨や銀貨の使用のようす 上田藩での藩札の発行

(5) 城下町での商いの工夫

149

商売方法の変化

(6) 城下町の奉公人

150

奉公人のすがた 奉公人の人数 城下町の奉公人

城下町絵図の職人町	鍛冶町	紺屋町	二つの大工町	瓦焼（川原柳）
二 城下町とその周辺の諸職人	宝永三年の城下町の職人	城下町周辺の村々の職人	諸職人の仕事賃	職人と火消役
	職人と水役	コラム 職人作料のこと		
三 職人の保護と規制	仲間の結成と取締	享保の大火をめぐる	文政四年の世話役任命	他所職人の渡世許可
	天保二年の職人規定書	嘉永六年の職人制度書		
第二節 諸職人				
一 さまざまな職人	『諸国道中商人鑑』をみる	文久三年城下町渡世調べ		
二 鍛冶職	元禄年間の仲間取極	取極違反者の処分	鍛造りをめぐる争い	
三 紺屋職	宝永二年の仲間定書	文政三年の動き	天保飢饉期と紺屋の動き	安政四年の紺屋取締
四 鋳物師	常田村の鍋屋	鋳物師の仕事		
五 酒杜氏	上田城下の酒造り	杜氏たちの出身地		
六 桶職	桶屋の組織と水役	桶職の世話役		
七 菓子製造	上田の菓子屋	菓子屋の仲間結成		

八	豆腐製造……………	205
---	-----------	-----

豆腐の製造と値段 豆腐屋の鑑札交付願

コラム 江戸時代の貨幣

九	髪結……………	207
---	---------	-----

髪結の前史 髪結の取締 髪結の増加と取締の強化

一〇	大工・諸職人……………	209
----	-------------	-----

鵜遣 大工 綿打 紙漉・瓦師・黒鍬

第七章 町と村のかかわり

第一節	村人の買物……………	215
-----	------------	-----

一	近世の前期から中期へ……………	215
---	-----------------	-----

慶安四年の「小遣之覚」 元文三年の「大福萬覺帳」

二	近世の後期……………	218
---	------------	-----

勘定書の束 在村商人の動き

第二節	町方の農業……………	221
-----	------------	-----

一	城下町商人の農業……………	221
---	---------------	-----

町人の田畑所持 田植時期の食事 奉公人をめぐって 町人による小作経営

二	町方で書かれた農書……………	224
---	----------------	-----

齊藤如始の『農業』 への香も移せ冬こやし

執筆分担
あとがき
参考文献
上田市誌の編さん組織

表紙	原町 呉服商 浜田屋伊助の御祭礼（祇園祭）屏風絵（六
裏表紙	曲一双の左隻（町絵師 田口九畦画（上田市立博物館蔵）
	御祭礼（祇園祭）屏風絵（上田市立博物館蔵）表紙の続き

上田市誌 歴史編(7)

城下町上田

発行 平成十四年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田 市

上田 市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇